



図書館 だより

図書館 ☎69・3706

今回は、蒲郡東高等学校2年生の河合芽久実さんに、読書にまつわるお話をうかがいました。

一図書館はよく利用しますか？

あんまり…(笑)。たまに行きますが、基本は家にある本を読みます。自分で買うことの方が多いですね。

一よく読むジャンル、好きな作家は？

推理小説とかよく読みますね。作家は、伊坂幸太郎や加藤実秋、それから有川浩が好きです。

一最近読んだ本で面白かったものは？

『デュラララ!!』と『インディゴの夜』が楽しかったです。『インディゴの夜』は昼ドラでやっているのを見た時に、「なんかイケメンいっぱいいるなー」って思って(笑)。表紙のイラストも良かったし、女の子が書いているみたいだったので買ってみたら、面白くて全巻集めて読みました。

一河合さんのオススメの本は？

有川さんの『植物図鑑』。あと、伊坂さんの『グラスホッパー』がオススメです。伊坂さんの本は、3人の登場人物が、徐々に1つの場所に集まっていく色々な経路が面白くて。有川さんの本は、なんとなく展開がわかっちゃうんだけど、それでも読み進めちゃう魅力があります。



『グラスホッパー』



『インディゴの夜』



竹島水族館では何十年ぶりの新設大型水槽。気合いが入ります。しかし、タッチング水槽は現在多くの水族館にあるので普通のも

「タッチング水槽」 理想と現実

皆さんからの要望が多かった生き物に触ることのできる「タッチング水槽」が水族館に新設されます。予定では来年の3月ごろです。現在ある回遊水槽が老朽化したため、これを取り壊しての設置になります。

■お金と知恵

それでも、小学校時代から「電気代以外は自分の小遣いで」というルールのもとに貧困水族飼育をしてきた私にとって「お金を使うか、

を作っても平凡。何かオリジナリティのあるものを、というのが大きな課題になっています。その他にも課題はありますが、飼育スタッフがそれぞれ理想の水槽を紙に描いて持ち寄り、協議してでき上がった理想の水槽イメージは予算を大幅に超えてしまい、計画は一瞬で海の藻屑となりました。

■勉強はしっかりと

回遊水槽を撤去してお客さんが歩くスペースや生き物に触るスペースを確保すると、実際に使用できるエリアは台形になります。どれくらい面積なのか算出しようとしたのですが、「アレ？台形の面積の公式って、どうだっけ」。

それとも頭を使うか。どちらも使わずに魚は飼えない。いい水槽は作れない」というのは理解できています。実際、お金の知恵で補うことは十分可能だと思っし、そのほうが良いものができ、やりがいもあります。現在、私と戸館が構想を練って何度も平面図を作り、それを絵の得意な後輩の三田が立体的なイメージ図に起こす、という作業が着々と進んでいます。

私は算数が学校の授業で一番キライでした。近くにいた三田に聞いたら笑顔で「わからんです」。受付スタッフのHさんに聞いても「えっ、いきなり言われても自信ないです」。そこで水族館内で一番若いスタッフの岩田に聞くと、「上と下を足してカッコで閉じて、それに高さをかけて2で割るですよ。楽勝っすね」。授業中、コレを覚えて大人になったとき役に立つのか、と思ったり、社会人になっても、やはり覚えても一度も使わないじゃないか、と思ったりもしましたが、勉強というのはしつかりやっておいたほうがいいし、覚えても使わなければ脳内から次々と記憶は抹消されていくのだから、とつくづく感じました。



水族館



学芸員 小林龍二

竹島水族館
☎68・2059